

目 次

刊行にあたって

凡 例

先史・古代史・中世史編

総 論

佐伯の先史・古代・中世	4
1 佐伯の先史	4
(1) 旧石器・縄文時代のくらし	4
(2) 弥生時代のくらし	4
(3) 古墳時代の様子	5
2 佐伯の古代史	5
(1) 奈良時代の佐伯	5
(2) 平安時代の佐伯	6
3 佐伯の中世史	6
(1) 鎌倉時代の佐伯	6
(2) 室町時代の佐伯	7
(3) 戦国時代の佐伯	7
4 中世佐伯のウミとヤマ	8
(1) 番匠川と門前川 そして梅牟礼城下へ	8
(2) いのりの空間	8
(3) 中世のムラ	9
(4) 佐伯市内の中世城館	9
(5) 佐伯市の中世石造物	9

第1章 佐伯の先史

第1節 旧石器・縄文時代	12
1 旧石器・縄文時代のくらし	12
(1) 旧石器時代・縄文時代の日本列島	12
(2) 旧石器時代のくらし	13
(3) 縄文時代のくらし	14
2 旧石器・縄文時代のさいき	17
(1) 旧石器・縄文時代のさいきの暮らし	17
(2) 森の木遺跡の発掘調査	21
(3) 聖嶽洞穴の調査	24
第2節 弥生・古墳時代	26
1 弥生時代のくらし	26
(1) 「弥生時代」と「弥生文化」	26
(2) 大分県域における弥生文化	27
(3) 県域の弥生文化の特徴	30
2 佐伯市域の弥生文化	30
(1) 市域内の主な遺跡	30
(2) 佐伯市域の弥生時代遺跡の立地	33
(3) 佐伯市域と西南四国地域との遺跡立地の比較	34
(4) 佐伯弥生人のくらし	34
(5) 佐伯弥生人の姿と後世への継承	36

3 古墳時代のはじまりと展開	37
(1) 古墳時代のはじまり	37
(2) 古墳時代の大分と海部の動向	37
4 さいきの古墳文化	40
(1) 佐伯市の古墳と調査	40
(2) 佐伯市の古墳と集落	41
(3) さいきの古墳の特色	48

第2章 佐伯の古代

第1節 海の民がつくる海部の世界	52
1 海部の特色	52
(1) 海民のクニ	52
(2) 海部郡の郷	53
2 海の道と陸の道	54
(1) 境界のクニ海部と天皇	54
(2) 律令国家期の二豊・日向の往還	56
第2節 佐伯院と佐伯荘	59
1 承平・天慶の乱と佐伯院	59
(1) 藤原純友の乱のはじまり	59
(2) 藤原純友、乱の首謀者となる	59
(3) 佐伯是本ら豊後勢と佐伯院	60
2 荘園の成立	63
(1) 佐伯荘と戸穴荘は同じ荘園	63
(2) 智恵光院領戸穴荘の伝領	63
(3) 戸穴荘と佐伯荘の関係	64
(4) 皇室領智恵光院領の成立とその後	65

第3章 佐伯の中世

第1節 鎌倉時代の佐伯	68
1 源平の内乱と豊後大神氏	68
(1) 豊後を舞台にした源平の内乱への前提	68
(2) 豊後大神氏の挙兵とその顛末	69
(3) 佐伯氏はなぜ内乱を生き残れたのか	71
2 佐伯氏の登場	73
(1) 佐伯氏の始祖惟家	73
(2) 初代佐伯惟康	74
(3) 承久の乱と2代惟朝（佐伯左近将監）	74
3 大友氏の入部と豊後国図田帳	74
(1) 大友氏の豊後入部と佐伯氏	74
(2) 豊後国図田帳の成立	75
(3) 豊後国図田帳に見える佐伯荘	76
4 所領をめぐる問題	79
(1) 佐伯荘堅田村の相論	79
(2) 蒙古合戦と恩賞をめぐる相論	80
第2節 室町・戦国時代の佐伯	82
1 南北朝・室町時代の佐伯氏	82
(1) 14世紀の佐伯氏	82
(2) 佐伯氏「小番衆」となる	84
(3) 15世紀の佐伯氏	85

2 戦国時代の佐伯と大友氏	86
(1) 大友氏の内紛	86
(2) 戦国時代の大友氏	87
(3) 佐伯氏の台頭と梅牟礼合戦	88
(4) 加判衆となった佐伯氏と佐賀閥	89
(5) 南海路と佐伯	89
3 豊薩戦争と佐伯	91
(1) 惟教・惟真父子、日向に散る	91
(2) 島津軍の侵攻と佐伯	93
(3) 惟定の逆襲、堅田合戦	94
4 大友氏除国	95
(1) 1587年以降の佐伯氏	95
(2) 文禄の役と大友吉統の除国	96
(3) 佐伯一族、伊勢へ	96
第3節 中世佐伯のウミとヤマ	98
1 水運の拠点・古市と梅牟礼城下集落	98
(1) 番匠川と門前川	98
(2) 古市の成立と十三重塔	98
(3) 佐伯氏一族と樺野	100
(4) 梅牟礼城下の景観	101
2 いのりの空間	103
(1) 「こころの安穏」をもとめて－はじめに－	103
(2) 2つの記録－近代と近世の記録について－	103
(3) 佐伯の神々	104
(4) 仏教と地域のいのり	110
(5) まとめ	112
3 中世のムラ	113
(1) ウミの莊園・佐伯莊	113
(2) 戸穴と古市と堅田－佐伯莊と近世の朱印村－	113
(3) 中世のムラ－佐伯の地下－	117
(4) 緜と漆と楮と茶－ヤマの開発－	119
(5) 佐伯莊の特徴－さまざまなムラ－	121
4 佐伯市域の中世城郭	121
(1) 中世城郭とは何か	121
(2) 佐伯氏の本城、梅牟礼城	121
(3) 最新の技術を投入した小田山城	123
(4) 宣教師が記録した佐伯の城郭	124
(5) 朝日岳城と柴田紹安	126
(6) 八幡山城と堅田合戦	127
(7) 日向国境最南端の城郭	128
(8) 佐伯市内の中世城館の位置づけ	128
5 佐伯市の中世石造物	131
(1) 佐伯市内の石造物の特徴	131
(2) 最も古い石塔	132
(3) 上小倉磨崖石塔群の語ること	133
(4) 宝塔の展開	135
(5) 海部地域の石塔	137
(6) 石塔が作られた理由	137

総 論

佐伯の近世	142
1 近世佐伯のはじまり	142
2 近世佐伯の人々の生活	144
3 幕府領と岡藩領	147
4 藩政改革から藩の解体へ	148

第1章 近世佐伯のはじまり

第1節 近世佐伯の夜明け	152
1 豊臣政権下の佐伯	152
2 毛利高政の豊後入国と佐伯入部	153
(1) 豊後入国前の高政 153 / (2) 文禄・慶長の役と高政 154	
(3) 日田・玖珠郡と高政 156 / (4) 佐伯入部と蔵入地預かり 156	
(5) 高政と将軍・幕府 157	
第2節 佐伯城の造営・修理と調査	159
1 佐伯城の建設	159
(1) 毛利高政による築城 159 / (2) 毛利高政入部以前の石垣 162	
2 江戸時代の維持管理	163
(1) 毛利高慶による大修築の発端 163 / (2) 宝永の普請 163	
(3) 大手櫓門の造営 164 / (4) 享保11~13年の山城普請と竣工 165	
(5) 佐伯城の管理 166	
3 「山城」を維持する工夫と技術	170
(1) 雄池と雌池 170 / (2) 雛壇状石垣の築造 170 / (3) 地震被害からの復旧 173	
4 三の丸御殿と櫓門	173
5 近代以降の佐伯城跡と現存する建築物	174
6 佐伯城跡の調査	175
第3節 佐伯藩初期の施策と城下町	177
1 近世前期の城下町と家臣団	177
(1) 寛永10年代の佐伯藩と城下町 177 / (2) 城下町の建設とその構造 178	
(3) 発掘された佐伯城下町 182	
第4節 近世村落の成立	191
1 近世村落のすがた	191
(1) 謎?の慶長期の検地帳 191 / (2) 走り百姓 193	
(3) 耕作強制と荒地の開墾 194 / (4) 小農の自立 196	

2 浦方村落の形成	197
(1) 近世初頭の浦々と浦方編成	197
(2) 浦方の振興	198
(3) 網漁の始まりと網代	200
第5節 佐伯藩政の確立	202
1 6代藩主毛利高慶とその施政	202
(1) 6代藩主毛利高慶への相続	202
(2) 高慶の政治方針と武術	204
(3) 高慶と幕閣とのつながり	204
(4) 高慶と妻子・孫	205
(5) 晩年の高慶と高丘への家督相続	206
(6) 藩財政の窮乏と領内不穏	207
(7) 毛利高慶の隠居と逝去	208
2 江戸屋敷と大坂蔵屋敷	210
(1) 佐伯藩江戸屋敷	210
(2) 下屋敷とその他の江戸屋敷	211
(3) 江戸勤めの家臣たち	212
(4) 江戸屋敷の運営	214
(5) 大坂屋敷・京都屋敷	214
(6) 大坂屋敷の運営	215
(7) 大坂町人と佐伯藩	215
3 参勤交代と佐伯藩の船	217
(1) 日程と費用	217
(2) 享保15年の参府道中の詳細	218
(3) 毛利高慶の船旅	219

第2章 近世佐伯の人々の生活

第1節 村のくらし	222
1 檢地と農村状況	222
(1) 佐伯藩の元禄検地	222
(2) 村の具体的なすがた	223
2 束ねられた村と村役人制度	223
(1) 組と村	223
(2) 村役人の配置	225
(3) 牮庄屋	226
(4) 村の運営	226
3 貢租のしくみ	228
(1) 年貢と免	228
(2) 定免の採用と「郡中二分ケ」	228
(3) 小物成・夫役・切錢と年貢納入	229
(4) 豊作や飢饉への対応	230
4 新田開発と井路開発	233
(1) 在浦荒地の開発・起し返し	233
(2) 小田井路・鬼ヶ瀬井路	234
(3) 井手口付け替えをめぐって	235
(4) 岡藩井手大工文兵衛の見分	236
(5) 相次ぐ川除普請・井出修復	237
第2節 浦のくらし	239
1 浦高札と佐伯藩浦役	239
(1) 浦法度7か条	239
(2) 熊本藩召し船一行の遭難と佐伯藩浦方と在方	239
(3) 佐伯藩の人々への褒賞	240
(4) 佐伯藩の浦役	240
(5) 熊本藩への水主提供	240

2 浦方に課される諸税	241
(1) 浦方への課税	241
(2) 浜運上と淡路島出身者の漁民	241
(3) 網役	241
(4) 網代受	242
(5) 小船・廻船への課税	243
(6) 現物での納入	243
3 浦方漁民と生活	244
(1) 不漁と浦方の景況	244
(2) 漁祭の実施	244
(3) 耕作の奨励と未進・未返済の増加	245
(4) 18世紀半ば以降の浦方	246
4 御用銀と代後浦・小兵衛	247
(1) 佐伯藩の借金	247
(2) 御用銀の賦課	247
(3) 18世紀半ばの代後浦	248
(4) 御用銀100貫目差出	248
(5) 小兵衛御用銀の意味	249
(6) 小兵衛らの子孫と代後浦	249
第3節 町のくらし	252
1 両町の整備と町役人	252
(1) 町支配	252
(2) 町年寄	252
(3) 町年寄と藩財政	253
(4) 城下町と住民	253
(5) 城下町の大火と消防・救急	254
(6) 内町大火と城下町改造	255
(7) 船頭町の大火と町整備	256
(8) 町屋敷図から	257
(9) 町夫の負担	257
2 両町の諸営業	258
(1) 両町の景況と振興策	258
(2) 享保飢饉と米問題	260
(3) 城下町の諸営業	261
3 城下町佐伯の人の出入りと他国廻船の入津	266
(1) 人の出入り	266
(2) 入国者とその理由・出身地	267
(3) 他国廻船の入津	268
(4) 他国廻船の船籍地・積荷とその特徴	270
(5) 旅船の受入れ	270
4 佐伯廻船の活動と海賊事件	271
(1) 佐伯廻船の活動	271
(2) 海賊に出あつた佐伯廻船	271
(3) 福久丸の航跡と商い	272
(4) 「女猫の瀬戸」事件	273
(5) 事件の意味するもの	273
第4節 諸産業の発展	277
1 紙漉き・楮作りの発展	277
2 炭と樵木	284
3 檜脳作り	286
4 鯨油の使用	287
5 シシ垣、害獣駆除	288
6 漁法の改良と漁撈具	289
第5節 近世佐伯にくらした人々	292
1 近世佐伯の人口	292
2 近世佐伯のキリストン	292
3 近世佐伯の社寺（寺と人々）	295

4 村々をつなぐ道	296
5 綱代をめぐる争論、梓山をめぐる対立	298

第3章 幕府領と岡藩領

第1節 佐伯藩の中の幕府領	304
1 幕府領のすがた	304
(1) 幕府領の成立 304 / (2) 幕府領の概要 305 / (3) 支配の変遷 306	
2 佐伯藩の幕府領支配	309
(1) 支配の実態 309 / (2) 度重なる訴訟 312 / (3) 幕府領支配の終焉 315	
第2節 岡藩宇目郷と鉱山の生活	317
1 岡藩宇目郷の成立	317
(1) 深田家・渡辺家の決断 317 / (2) 宇目四千石とその支配 319	
(3) 岡藩の年貢と諸負担 321	
2 岡藩の鉱山経営	325
(1) 木浦山の開発 325 / (2) 木浦山の錫精錬 326	

第4章 藩政改革から藩の解体へ

第1節 藩財政の窮乏と宝暦の改革	332
1 7代藩主毛利高丘の治世	332
(1) 毛利高丘の生涯と藩財政 332 / (2) 宝暦改革と人事刷新 332	
(3) 毛利高丘の参勤交代 334 / (4) 毛利高丘の伊勢参宮と死去 334	
2 宝暦改革とその特徴	335
(1) 改革の発端 335 / (2) 城下町・浦方の改革政策 335	
(3) 様々な藩収入増加方策 337 / (4) 大坂商人助松屋と佐伯藩の櫨栽培 337	
(5) 塩場所の設置と諸運上の見直し 338 / (6) 借財の処理と御用銀の賦課 339	
第2節 毛利高標の藩政改革と文教政策	340
1 高標時代の藩政	340
(1) 幼君彦三郎と藩政 340 / (2) 災害復旧と沖ノ須賀新地（女島）の築造 340	
(3) 高標の初国入りまで 341 / (4) 億約・省略と相次ぐ災害 342	
(5) 寛政末年の佐伯藩と高標の死 344	
2 四教堂と文人文化	346
(1) 学者大名高標 346 / (2) 四教堂の設立と展開 348	
(3) 佐伯の文人文化 350	
3 佐伯文庫	352
(1) 佐伯文庫の形成 352 / (2) 佐伯文庫の蔵書と利用 353	
(3) 佐伯文庫の献上とその後の行方 355 / (4) 佐伯文庫の魅力 356	
4 19世紀の佐伯藩体制	357

(1) 高標以降の佐伯藩主	357	/	(2) 高誠時代の佐伯藩と財政	357
(3) 関谷隼人による借財整理	358	/	(4) 10代高翰の初国入りと人事	359
(5) 文化11年の神仏參詣などの他出禁止と解禁	359			
(6) 切手仕法の改定と天保改革	361			
5 佐伯藩の家臣たち				362
(1) 享保8年の佐伯藩の家臣団	362			
(2) 明石伝蔵不埒につき永暇－武家の勤め－	363			
(3) 亥年（享保4年）の仕置改め	364	/	(4) 家臣団の動向と足軽の訴願	365
(5) 沼・戸倉・益田	365	/	(6) 小林・黒木・中根	367
(7) 様々な家臣たちと知行差上げ	369			
第3節 村落の変化				375
1 飢饉と救済制度				375
(1) 多発する不作・凶作	375	/	(2) 城下を襲った洪水・大火	375
(3) 飢饉も発生	376	/	(4) 佐伯藩の備荒貯蓄	376
2 近世村落の変容				378
(1) 村落構造の変化	378	/	(2) 村落の困窮化	379
第4節 民衆のたたかい				381
1 逃散と村方騒動				381
(1) 逃散の頻発	381	/	(2) 寛保3年の逃散	382
(3) 文化初年の騒動	384			
2 文化の大一揆と佐伯藩				384
(1) 藩へ要求提出	384	/	(2) 文化一揆の勃発	385
(3) 要求の項目	386			
(4) 要求への回答	387			
第5節 近代へのあゆみ				389
1 伊能忠敬の測量				389
(1) 天文測量方の来訪に備える	389	/	(2) 佐伯藩領の測量	389
2 唐船騒動				390
(1) 唐船を見た	390	/	(2) 唐船が漂着した	391
3 揺れる大地				392
(1) 宝永地震と津波	392	/	(2) 明和6年の地震	393
(3) 嘉永7年、大地震・津波の発生	393			
4 コレラの流行と佐伯藩領				394
(1) コレラの流行	394	/	(2) 幕末維新期の流行病と死亡者	397
(3) 明治10年代の死者について	397			
5 領外への開拓移住				398
(1) 府内藩の原野開拓	398	/	(2) 新天地を求めて	399
6 幕末の動乱と藩体制の終焉				400
(1) 佐伯藩の終焉	400	/	(2) 人々の願い	400

総 論

佐伯の近代	406
-------------	-----

第1章 近代社会の成立

第1節 明治維新と新しい社会制度	410
1 大分県の成立	410
(1) 廃藩置県と大分県の成立 410 / (2) 戸籍制度と大区小区制 411	
(3) 地租改正と税制 413	
2 新しい社会制度	414
(1) 漁場の再編と漁業権 414 / (2) 学制と徴兵制 415	
(3) 陸上・海上交通と郵便制度 416 / (4) 県境の確定と番匠川の名称 417	
(5) 神仏分離と小社の整理 418 / (6) 新宗教とキリスト教 419	
第2節 西南戦争	422
1 農民一揆の頻発	422
(1) 明治初期の農民一揆 422 / (2) 明治2年の岡藩一揆と周辺での農民騒動 422	
2 佐伯士族の動向	424
(1) 禁錮騒動 424 / (2) 「兵隊党」と「学校党」 424 / (3) 「兵隊党」の動向 424	
(4) 藩による上層部の処分と兵隊党の捕縛 425 / (5) 厚生会 426	
3 西南戦争と佐伯	427
(1) 士族の反乱 427 / (2) 薩摩軍の佐伯への侵入 427	
(3) 本匠・宇目・直川の戦跡 429 / (4) 猪串湾と海軍 433	
(5) 人々の西南戦争 434	
第3節 自由民権運動と地方制度・教育	435
1 自由民権運動	435
(1) 三新法体制の成立 435 / (2) 自由民権運動と佐伯 436	
(3) 松方財政と明治17年の改正 438	
2 地方制度の整備	439
(1) 市制町村制の成立 439 / (2) 明治の町村大合併 439 / (3) 佐伯町の成立 440	
(4) 「地方自治」の現実 440 / (5) 府県制と郡制 442	
(6) 大日本帝国憲法と衆議院議員選挙 443	
3 教育制度の整備	444
(1) 学校教育の進展 444 / (2) 中学校の設立 445	
第4節 産業の発展	447
1 農業	447
(1) 南海部郡の重要産物・特殊産物 447	

(2) 明治12(1879)年頃の南海部郡の物産	447
(3) 農業	449
(4) 畜産	450
2 漁業	451
(1) 漁業制度の変遷	451
(2) 戦後漁業政策の推移	451
(3) 沿岸漁業	452
3 林業	453
(1) 木材	453
(2) 木炭	455
4 鉱工業	457
(1) 鉱業	457
(2) 工業(製造業)	458
5 交通・通信	460
(1) 道路網の整備	460
(2) 海上交通	461
(3) 鉄道	461
(4) バス	462
(5) 郵便	463
6 商業	463
(1) 佐伯町の成立と商業圏の拡大	463
(2) 明治・大正期の佐伯中心市街地	464
(3) 佐伯商工会議所	466
第5節 明治期の文化	469
1 龍溪・茂吉・蔵太郎	469
(1) 矢野龍溪	469
(2) 龍溪と佐伯	471
(3) 藤田茂吉と新聞ジャーナリズム	471
(4) 郷土史研究の先駆者 佐藤蔵太郎	472
2 国木田独歩と佐伯	475
(1) 国木田独歩と佐伯	475
(2) 小説「源をぢ」のあらすじ	476
(3) 「豊後の国佐伯」	477
(4) 〈紀州〉の実像と独歩	477
第6節 日清・日露戦争	480
1 日本と朝鮮	480
(1) 近代日朝関係の始まり	480
(2) 壬午軍乱と甲申事変	480
(3) 「脱亜論」	480
2 日清戦争	481
(1) 甲午農民戦争と日清戦争	481
(2) 下関条約と三国干渉	482
(3) 戦争祝勝会	482
(4) 義捐金と義勇兵	483
(5) 日清戦争と戦病死者	483
(6) 兵士の葬儀	484
(7) 軍事公債	484
3 日本人の意識	485
4 臥薪嘗胆	486
(1) 日清戦争後の日本とアジア	486
(2) 軍備拡張と徴兵制度の整備	486
(3) 軍都佐伯への兆し	487
5 日露戦争	488
(1) 日露開戦とポーツマス条約	488
(2) 大分県からの出征者数と戦病死者数	489
(3) 増税と国庫債券(国債)発行	491
(4) 凱旋軍人歓迎会	492
(5) 軍人家族援護	493
(6) 戦争と小学校	494
(7) 忠魂碑	494
6 一等国へ	495
(1) 日本の勝利	495
(2) 税の重み	495

第7節 地方改良運動と各種団体の結成	498
1 地方改良運動	498
(1) 戊申詔書と地方改良運動	498
(2) 模範村と『町村是』の作成	498
2 各種団体の結成	500
(1) 青年会（青年団）・処女会の組織と活動	500
(2) 在郷軍人会の組織と活動	501

第2章 二度の世界戦争

第1節 大正期の政治運動と「デモクラシー」の風潮	504
1 明治から大正へ	504
(1) 明治の終わりと大正天皇の即位	504
(2) 大正の幕開けと「大正政変」	505
2 「デモクラシー」と米騒動	505
(1) 『佐伯自治新聞』とデモクラシーの風潮	505
(2) 選挙権拡大要求と「地方自治」	506
(3) 政党間の対立と「三区事件」	507
(4) 米価騰貴と米騒動の嵐	508
(5) 佐伯町の米騒動	509
(6) 教育の普及・充実とその現実	510
3 国勢調査と人口・移民	512
(1) 国勢調査と南海部郡の人口	512
(2) 海外移民の増加	512
(3) 南海部郡の朝鮮人労働者	513
4 大正期の文化	515
(1) 「新しき村」と加藤勘助	515
(2) 芸術座の佐伯町公演	516
(3) 佐伯館と活動写真（映画）・ラジオ	517
第2節 第一次世界大戦	520
1 第一次世界大戦と佐伯	520
(1) 第一次世界大戦と日本・佐伯	520
(2) 大戦景気と世相	521
(3) シベリア出兵とユーフタの悲劇	522
(4) 阿南卓の「戦地通信」	523
2 感染症と衛生思想	524
(1) スペイン風邪の猛威	524
(2) 感染症と避病院	525
(3) 衛生思想の普及	527
第3節 軍縮と豊予要塞	528
1 軍縮と一時の平和	528
(1) ワシントン会議	528
(2) 佐伯湾周辺での海軍軍事演習	528
(3) 経済の混乱	529
(4) 大衆文化	531
2 豊予要塞	531
(1) 豊予海峡の重要性	531
(2) 日中関係の緊迫化と要塞建設	531
(3) 豊予要塞設置の計画	532
(4) 大正8年要塞整理案の改定	532
(5) 鶴御崎（丹賀）砲台の建設	533
(6) 鶴御崎（丹賀）砲台の爆発事故	534
(7) 佐伯防備隊の発足	535
(8) 終戦と豊予要塞	535

第4節 地場産業の発展	536
1 みかんとしいたけ	536
(1) みかん 536 / (2) しいたけ 537	
2 養蚕	538
3 行商	541
(1) 北海道への行商 541 / (2) 宮崎県・鹿児島県への行商 543	
4 豊後土工	543
(1) 出稼ぎの始まり 543 / (2) 大正期～昭和前期の出稼ぎ 543	
第5節 昭和恐慌と自力更生	546
1 昭和の船出	546
(1) 昭和の船出と青い目の人形 546	
2 昭和恐慌の波及	547
(1) 浜口内閣の成立と世界恐慌 547 / (2) 農山漁村の惨状 548	
(3) 海軍航空隊設置による特需 550	
3 自力更生	550
(1) 不況と農漁村の窮乏 550 / (2) 時局匡救事業 551 / (3) 自力更生 552	
第6節 満州事変から日中戦争へ	554
1 満州国の成立と満州移民	554
(1) 満州、満蒙とは 554 / (2) 満州事変の勃発－「十五年戦争」のはじまり 555	
(3) 満州事変と新聞報道 555 / (4) 慰問活動と国防思想の普及 556	
(5) 満州国成立と国際連盟脱退町民大会 557 / (6) 大分連隊の満州派遣と慰問真綿 558	
(7) 佐伯中学満鮮修学旅行 559 / (8) 「満蒙開拓」と満州分村移民 560	
(9) 「満州佐伯村」の建設と消滅 561	
2 国防と生活	562
(1) 防空演習のはじまり 562 / (2) ゴー=ストップ事件の波紋 563	
3 佐伯海軍航空隊の開隊	564
(1) 開隊までの経緯 564 / (2) 佐伯空の概要 565 / (3) 真珠湾攻撃と佐伯 566	
(4) 佐伯飛行場を使用した航空隊 566 / (5) 戦後の佐伯空 567	
4 日中戦争と佐伯	569
(1) 大分県在郷軍人会佐伯大会 569 / (2) 日中戦争のはじまり 569	
(3) 相次ぐ戦死報道と町村葬 570 / (4) 戦地からのリポート 571	
(5) 佐伯海軍航空隊と重慶爆撃 572	
5 戦争と生活の統制	574
(1) 戦時統制と国民生活 574 / (2) 下駄ともんぺ、戦時弁当と木炭バス 575	
(3) 日中戦争と農漁村の状況 576 / (4) 大政翼賛会と隣保班 577	
6 戦時下の文化	577
(1) 戦時下の文化－映画『悦ちゃん』 577	

第7節 アジア太平洋戦争	582
1 軍都佐伯	582
(1)「佐伯空」とインフラ整備 582 / (2) 佐伯防備隊の開設 582	
(3) 佐伯町から佐伯市へ 583 / (4) 佐伯市民と航空隊 584	
(5)「軍都佐伯」の語ること 585	
2 戦時下の暮らし	586
(1) 佐伯の人々の戦時下の暮らし 586 / (2) 日本本土に近づくアメリカ軍 587	
3 疎開	588
(1) 疎開の種類 588 / (2)「疎開」という用語の本来の意味 588	
(3) 沖縄県から佐伯への学童疎開 589 / (4) 対馬丸沈没事件と十・十空襲 590	
(5) 大分県と佐伯における疎開者の受け入れ状況 590 / (6) 疎開先での生活 592	
4 敗戦	593
(1) 沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾投下 593 / (2) ポツダム宣言受諾と終戦 593	

資料編／599

写真・図・表一覧／652

コラム一覧／663

参考文献／664

執筆者一覧／678

資料・写真提供、協力者一覧／679

佐伯市史編さん関係者名簿／680

あとがき／682